

競技規則の修正および試合における規則上の留意点

平成30年度の競技会が、安全で円滑に実施されるよう、以下の内容について部員生徒への指示・徹底をお願いします。

記

1 競技者注意事項について

- ① 主要日程要項記載の「競技会の参加の心得」や競技会プログラムに記載される「競技注意事項」をよく読むこと。
- ② コールもれについて
競技会により、招集時間・方法が異なることが多いので注意すること。
「少しぐらいの遅れなら許してやってもいいのでは」という考えは、教育的配慮としてはあっても、選手権のかかった大会では公正・公平が重んじられるべきである。
- ③ 施設内への入場
いくつかの支部を除いて、抽選による代表2名を先に入場させる方式をとっているため違反しないこと。中にはそれに反し競技場の壁やフェンスをよじ登って、忍び込む例が競技場側から報告されている（監視ビデオの映像あり）。以後の借用を円滑にするためにも、厳に謹むこと。
また、スタンドにて必要以上にブルーシート、メガホン、マーカー、マット等を広げ、場所取りする例も目立つ。マナーを守った応援・観戦をすること。
- ④ ゴミ処理
自分たちが出したゴミは原則、各自持ち帰りであること。途中の公園・コンビニ・駅構内等に投棄することのないようすること。やむをえない場合、大会本部で設置するゴミ袋で回収することになるが、その際は分別を徹底し、また回収作業に協力して頂くことがある。
- ⑤ 競技場への交通手段
車やバイクを使用する場合は、応援の高校生も含め禁止であること。
- ⑥ 競技会参加の服装について
ア リレー種目では、同一のユニフォームを原則とすること。
ただし、着用するパンツ、スパッツなどは、形が不揃いでもよいが、同一色にすること。
イ 「競技会における広告および展示物に関する規定」により、その規定に違反する箇所数・大きさのロゴマーク、メーカー名の入った衣類を競技場内で着用しないこと。着用した場合、着替え直しや、テープを貼られるなどの処置を受けることもあるので注意すること。
- ⑦ 競技場内への持ち込み品について
規則第144条3（競技者に対する助力）により、「ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で所持または使用すること」が禁じられていること。
途中で所持が発覚した時には、取り上げ・預かる場合がある。また使用した場合は、審判長から警告がなされ、繰り返せば失格になることが警告される。

—顧問の先生方へ—

⑧ 競技会申込について

支部で行われる競技会では、各支部長から送付される要項（1支部はオールマナックとして、年間を通して冊子として配付している）。都大会関係は主要日程要項記載の要項に従い申込を行うこと。その際、注意点として特に以下の点にご注意いただきたい。

ア 校長・顧問印の欠落、また校名を略するなど。

イ 入力事項の不備（特に登録ナンバーと異なる番号で申し込む例。異なる種目を書く例。）

ウ 参加資格記録、最高記録の不備、欠落。（提出された記録を元に番組編成を行っている。必ず、記録欄に記入すること）

2 競技規則の修改正について

本年度修改正があった内容のうち、高校生に關係する条項を抜粋しました。

詳しくは（公財）日本陸上競技連盟 HP、陸上競技ルールブック 2018（ベースボールマガジン社）を参照して下さい。また各競技会の大会要項、競技注意事項を確認して下さい。

現行—：削除 -----：追加・挿入 _____：変更 ~~~~~：移動 *：補足説明

第 162 条 スタート

5. 「On your marks（位置について）」または「Set（用意）」の合図で、競技者は、一斉にそして遅れることなく完全な最終スタート姿勢をとらなければならない。競技者が位置についた後、何らかの理由でスターターが競技者のスタート手続きが整っていないと感じた場合、スタート位置を離れるよう競技者に命じ、出発係は競技者を再び集合線に整列させなければならない。〔参照 第130条〕

競技者が下記の行為をしたと判断したなら、スターターはスタートを中止しなくてはならない。

- (a) 「On your marks（位置について）」または「Set（用意）」の合図の後で、信号器発射の前に正当な理由もなく手を挙げたり、クラウチングの姿勢から立ち上がった場合（理由の正当性は審判長によって判断される）。
- (b) 「On your marks（位置について）」あるいは「Set（用意）」の合図に従わない、あるいは遅れることなく速やかに最終の用意の位置につかなかつたとスターターが判断したとき。
- (c) 「On your marks（位置について）」あるいは「Set（用意）」の合図の後、音声や動作、その他の方法で、他の競技者の妨害をしたとき。

この場合、審判長は第 125 条 5 ならびに第 145 条 2 に従い不適切行為があったとして当該競技者に対して警告を与えることができる（同じ競技会の中で 2 度の規則違反があった場合は失格となる）。

この際、**グリーンカード**を示してはならない。

このように特定の競技者に警告を与えた場合やスタート中断の原因が競技者の責任でないと考えられる場合、あるいは審判長がスターターの判断に同意できない場合は、競技者全員に**グリーンカード**を提示して不正スタートを犯した者がいないことを示す。

解説

- * (C) 音声や動作その他の方法で、他の競技者を妨害したとき
⇒ 従来の「ピック付き動作」が警告（イエローカード）の対象になります。
- * 同じ競技会の中で、2 回のイエローカードが出された場合「失格」となり、それ以後の種目に出場することができなくなります。
例) 100m 予選で 1 回目の警告。100m 準決勝で 2 回目の警告 ⇒ 失格。リレーも含め、以後の種目に出場できなくなります。
- * 警告時の所作は①審判長からイエローカードが提示されます。②その後に出場する全種目のスタートリストに「YC」と表示されます。③2 回目の警告が出た場合、イエローカード+レッドカードが提示され、失格となり、競技から除外されます。（記録には「YRC」と表示されます。）
- * 日本陸連主催・共催・後援大会、全国大会等では必ず適用されます。但し、それ以外の競技会では主催者側の判断で適用方法が任されています。東京高体連では以下のように実施します。
 - ① 都大会（総体、選抜・一年生、新人戦）では、2 回目の警告でその種目は失格とするが、それ以後の種目の出場を妨げるものではない。
 - ② 支部大会（春・夏・秋季競技会も含む）では、1 回目は注意に留めるが、繰り返し行う場合は警告を与える場合がある。2 回目の警告でその種目は失格とするが、それ以後の種目の出場を妨げるものではない。
 - ③ その他の競技会（東京選手権、〇〇陸協主催大会等）では、競技注意事項を確認してください。

第 170 条 リレー競走

3. 4×100mR の総ての区間、4×200mR とメドレーリレーの第 1 走者と第 2 走者間、第 2 走者と第 3 走者間のテイク・オーバーゾーンは 30m とし、ゾーンの入り口から 20m がスクラッチラインとなる。4×200mR とメドレーリレーの第 3 走者と第 4 走者間、4×400mR およびそれ以上の距離で行われるリレーでは、各走者間のテイク・オーバーゾーンはセンターラインを中心に 20m とする。

解説

- * 従来、4×100mR では、ブルーラインから次走者がスタートし、テイク・オーバーゾーンの入り口手前でバトンパスが開始されると、違反行為とされていましたが、30m のテイク・オーバーゾーン内でバトンパスが完了されれば良いこととなりました。

11 リレーチームの編成は、各ラウンドの第 1 組目の招集完了時刻（その時刻にリレーに出場する全競技者が招集所に集合する）の 1 時間前までに正式に申告しなければならない。

一度申告したらその後の変更は、最終招集時刻（その時刻にリレーに出場する全競技者が登録され

招集所から出発する)までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。各チームは申告された競技者がその順番で走らなくてはならない。

[注釈]

招集完了時刻前であっても、一度申告した編成の変更(オーダー用紙の差替え)は認められない。医師の判断による変更は出場選手の変更のみ認められ、編成(走る順番)の変更は認められない。

第 180 条 総則—フィールド競技

17. 試技時間

単独競技

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上 ※	30 秒	1 分	30 秒
2~3 人	1 分 30 秒	2 分	1 分
1 人	3 分	5 分	—
連続試技 ※※	2 分	3 分	2 分

※ 4人以上または各競技者の最初の試技

※※ 走高跳・棒高跳では、残っている競技者が二人以上で、同一の高さの時のみ適用する。

混成競技

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上 ※	30 秒	1 分	30 秒
2~3 人	1 分 30 秒	2 分	1 分
1 人	3 分	5 分	—
連続試技 ※※	2 分	3 分	2 分

※ 4人以上または各競技者の最初の試技

※※ 残っている競技者数に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

[注意]iv 走高跳と棒高跳で優勝を決めて競技者が一人になり、世界記録(・日本記録)その他大会等に挑戦する場合には、定められた時間より、1分延長しなければならない。

解説

- * 棒高跳を除き、4人以上または各競技者の最初の試技で許される時間が 30 秒に短縮されました。主審は試技開始の準備が出来た段階で、旗を降ろします。必ずしも競技者とアイコンタクトを取って行うわけではありません。
- * 時間延長は、日本記録や大会記録等への挑戦の場合のみ適用されるのであって、別競技会の標準記録への挑戦等は対象外です。

第 200 条 混成競技

12. 競技会でどの順位についても 2 人以上の競技者が同じ得点をとった時は同成績とする。

解説

- * 従来、二人以上で同得点だった場合、
 - (a) 他の競技者よりも多くの得点をとった種目の多い競技者を上位
 - (b) それでも差がつかない場合、最高得点をとった競技者を上位
 - (c) それでも差がつかない場合、2 番目に高い得点、3 番目に高い得点と順に下がっていき、どうしても差がつかない場合、同成績とする。
 となっていました、それらが削除されました。

* その他の変更箇所等については ルールブック 2018 年版、日本陸連 HP をご覧ください。

* ルールの変更ではありませんが、第 170 条 6 (c)、7 「リレー競走」の解釈について徹底されました。以下ご確認下さい。

解説 第 170 条 6 (c)、7 リレーでテイク・オーバーゾーンを出た時、バトンを落とした時の対応

- ① **バトンが渡らず**、次走者がテイク・オーバーゾーン (TOZ) を出てしまった**とき**、前走者が TOZ に留まっていれば、次走者がゾーン内に戻ってバトンパスを完了させれば有効となる。
- ② **バトンが渡らず**、前走者、次走者共に TOZ を出てしまった**とき**、この場合は両者が TOZ に戻ってバトンパスを完了しても失格となる。(TOZ 内でバトンパスが完了できなかったため)
- ③ バトンパスが開始されないまま、前走者、次走者共に TOZ を出てしまった**とき**、両者が TOZ に戻り、バトンパスを完了させれば有効となる。(まだバトンパスが開始されていないため)
- ④ バトンパスの最中にバトンを落とした場合、どちらが拾ってもよい。また、横や前方に転がり他のレーンやフィールド内に入った場合、他の競技者を妨害しなければ自分のレーンを離れることは許される。ただし、バトンを落とした地点に戻ってから再開しないと距離を短くしたとして失格となる。

競技会で使用する略語・略号

略号	日本語表記	読み / 意味
NR	日本記録	National Record
=NR	日本タイ記録	Equal National Record
NI R	室内日本記録	National Indoor Record
NJR	U20 (ジュニア) 日本記録	National Under 20 Record
NYR	U18 (ユース) 日本記録	National Under 18 Record
GR	大会記録	Game Record
=GR	大会タイ記録	Equal Game Record
NM	記録なし	No Marks
DNS	欠場	Did Not Start
DNF	途中棄権	Did Not Finish
DSQ	失格	Disqualified
Q	順位による通過者	Qualified 備考④参照
q	記録による通過者	qualified 備考④参照
qR qJ	審判長、ジュリー等の決定による	Relief or Referee (July) Decided
○	成功 (有効試技)	Cleared
×	失敗 (無効試技)	Failed
—	パス	Pass
r	試技放棄 (離脱)	Retire
<	ベントニー (競歩)	Bent Knee (Race Walking)
~	ロス・オブ・コンタクト (競歩)	Loss of contact (Race Walking)
YC	警告	Yellow card
YRC	2回目の警告 失格	Second yellow card
RC	レッドカードによる失格	Red card

*備考

- ① 記録用紙、大型映像への表記は、略号等を利用し、簡潔に表記していく。
(NU20については大型映像に標記できない場合があり、従来通りNJRと併用する。)
- ② 略語 (略号) を使用する場合は、プログラムに使用する略号一覧表と説明を記載して観客、競技者に意味が解るように配慮していく。
- ③ 大会記録の表示は、大会の規模や性格により表現が異なるため、国内大会では従来のとおり大会記録 (GR) を使用する。
- ④ 「Q、q、R」について
例) トラック競技の場合 (3組2着+2)
Q: 各組2位以内の着順 -----> Qualified by place
q: +2は、3位以下で、記録で上位2人 -----> qualified by time
qR: 救済および審判長等の決定により次ラウンドに進出させた競技者
例) フィールド競技の場合
Q: 予選通過標準記録突破者 Qualified by pre-set standard
q: 規則第180条15による決勝進出者 qualified as per rule 180条15
qR: 救済および審判長等の決定により次ラウンドに進出させた競技者
* 予選通過標準記録突破競技者が12名に満たない場合、決勝進出者を12名とすることから、予選通過標準記録突破者 (Q) に規則第180条15による決勝進出者 (q) を加える。
- ⑤ その他 [FS=不正スタート] や [T1=内側ライン上・その内側を走った] のように、失格を示す略号が使用されることがあります。詳しくは日本陸連HP、プログラムに記載される略号表をご覧ください。

4 審判資格取得について

生徒が補助員をする際、Official Passport (オフィシャル・パスポート) の活用をお願いします。これは卒業後、陸上競技公認審判員の資格を取得する際に、補助員の履歴を実技研修の履歴として考慮してもらえます。東京で取得する場合は、審判資格取得講習会 (筆記試験含む) を受講後、8回の実技研修の内半分が免除されます。